

[成果情報名]バレイショ種いも消毒の微粒子噴霧処理によるジャガイモそうか病防除

[要約]アグリマイシンー100 40倍希釈液での微粒子噴霧処理によるジャガイモそうか病を対象とした種いも消毒は、同剤の浸漬処理と同等の効果があり、水洗し汚れを落とした種いもを使用すると消毒効果が高まる。

[キーワード] 種いも消毒、噴霧処理、ジャガイモそうか病、ジャガイモ、バレイショ

[担当] 農林技術開発センター・農産園芸部門・馬鈴薯研究室

[連絡先] 電話 0957-36-0043

[区分] いも類

[分類] 指導

[背景・ねらい]

現在、バレイショの種いも消毒法としては浸漬処理が行われているが、この環境面で問題がある。ヨーロッパにおいて黒あざ病対象に廃液の出ない微粒子噴霧器が使用されているが、そうか病を対象とした試験事例がない。そこで、微粒子噴霧機（ミニフェック：オランダ Agri Tech 社製 図1）を用いたジャガイモそうか病に対するぼうじょこうかn 荷な種バレイショ消毒技術確立のため、ヨーロッパにおいて黒あざ病対象に使用されている噴霧処理機を用いてジャガイモそうか病に対する防除効果の検討を等を行う。

[成果の内容・特徴]

1. アグリマイシンー100 40倍希釈液600cc/100kgの散布で、浸漬と同等の防除効果がある（図2）。
2. 水洗し、汚れを落とした種いもを使用すると防除効果が高まる。（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 噴霧処理での薬液量は10aあたり約1.5ℓと少なく生え液がほとんど出ない。
2. 1時間あたり種いも処理量は約3.5tである。
3. 使用した微粒子噴霧処理機1式の価格は100万円以上である。

[具体的データ]



図1 種いも消毒 浸漬処理（左）と噴霧処理（右）

※浸漬処理（左）はコンテナに入れた芋（約20kg）を、農薬が40～50%入る薬液槽に漬け、この作業を10a当たり12回ほど繰り返す。

※噴霧処理（右）はロールベアラー上の種いもに散布する。

※噴霧処理における種いも消毒の所用時間は、種いも10a当り（240kg）約3分30秒である。

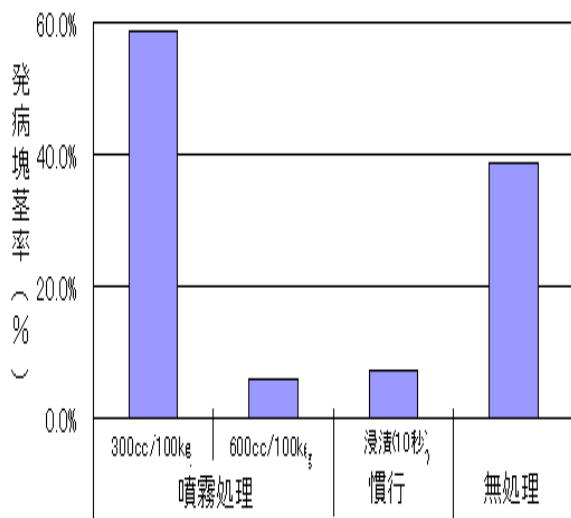


図2 噴霧量の違いによるそうか病の防除効果 2008年秋作
※使用薬剤 アグリマイシン-100 40倍

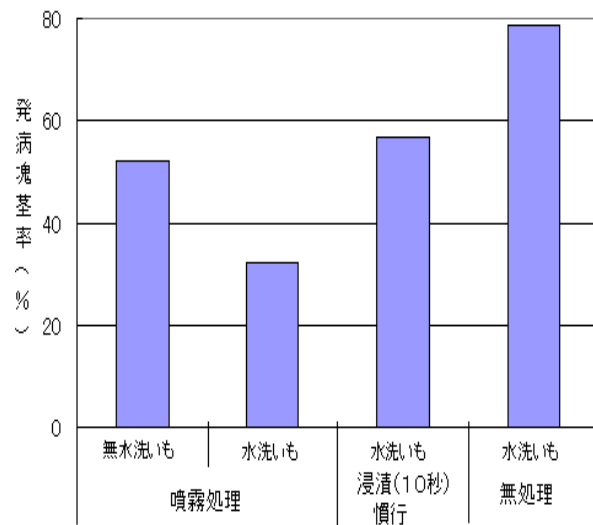


図3 処理前の種芋洗浄の有無によるそうか病の防除効果 2009年春作
※ 使用薬液はアグリマイシン-100 40倍 600cc/100kg
※ 種いもは病斑のある罹病いもを使用

[その他]

研究課題名：諫早湾干拓における環境保全型大規模生産技術体系の構築

予算区分：国庫（実用技術開発事業）

研究期間：2007～2009年度

研究担当者：平田憲二、小川哲治、迎田幸博